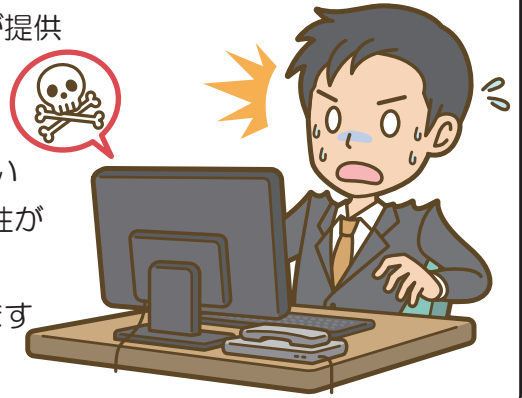


Windows7 まもなくサポート終了です！

2020年1月14日にWindows7のサポートが終了します。サポートが終了すると、マイクロソフト社が毎月配布している「セキュリティ更新プログラム」が提供されなくなり、インターネットやメールを安全に利用できなくなります。また、新しい周辺機器やソフトウェアサービスが登場した時に配布されていた「機能の更新プログラム」が提供されなくなることで、例えば新しいプリンターを買っても、Windows7のパソコンでは、使用できない可能性が出てきます。

当社ではパソコンの販売、設定、データ移行のサービスを行っておりますので、ご不明ながあれば、なんなりとご相談ください。



「Eco列車でいこう！」～第125回～ もう一つのワールドカップ (下)

(CO2排出量の少ない交通機関での旅行を応援していくコーナーです！)



釜石でのラグビーワールドカップ「カナダvsナミビア」を観戦するために、10月12日(土)の午後、新潟をクルマで出発した。

岩手県北上市のホテルにチェックインし、翌日の試合観戦に備えるが、テレビでは「台風19号が迫っているので、不要不急な外出は控えるように」とアナウンサーが訴えている。

台風は夜半に太平洋へと抜けていった。13日の朝、テレビが被害を伝えている。カメラが釜石市内を映し出すと、市街地が冠水している。そして6:40に「カナダvsナミビア」の中止が決まった。

津波からの希望の試合が、またしても自然災害によって中止となった。何年間も、この日のために準備してきた釜石の人々の無念さは相当のものだろう。

試合は中止になったが、やはり釜石に行きたい。

「日本のチベット」とよばれる岩手県内陸部を三陸海岸へ。釜石の市街地では、床上浸水した店舗や施設で人々が泥掻きをしている。ところどころ冠水している国道を北上し、鶴住居(うのすまい)地区へ。

低い峠を越えると、新しい街が視界に広がる。直感的に「津波に何もかもをさらわれたんだな」と分かる光景だ。亡くなった人々の名前を刻んだ「釜石いのりのパーク」を訪れた後、試合会場の「釜石鶴住居復興スタジアム」へ。スタジアムの写真を撮っていると、男性に声をかけられた。

「試合で掲げる予定だった大漁旗が100枚あります。キックオフの時間にみんなで掲げましょう！」

そして、試合開始予定の12:15。スタジアムの周りで100人が大漁旗を掲げた。

この「大漁旗パフォーマンス」はメディアによって海外に発信された。また、試合が無かったカナダ代表チームは、市内で泥掻きのボランティアを行った。そして、このような様々な取り組みが評価され、「ワールドラグビー年間表彰式」において、釜石市は荣誉ある「キャラクター(品格)賞」を受賞した。

日本代表がベスト8に進出して社会現象を巻き起こしたラグビーワールドカップであるが、ここ釜石に、もう一つの「ワールドカップの物語」があったことも忘れてはならない。

